

●投稿内容

投稿論文は外傷学の進歩に寄与する創意にとんだもので、他誌に発表されていないものとする。ただし、国際医学雑誌編集者委員会 (International Committee of Medical Journal Editors: ICMJE) 作成の「生医学雑誌への投稿のための統一規定」: Uniform Requirements for Manuscripts Submitted to Biomedical Journals (<http://www.icmje.org/>) に基づいた受理可能な論文など一定の要件を満たし、編集委員長が認めたものに関しては二次出版を認める。

●投稿資格

著者または共同著者のうち1名は本会の会員であることを要する。ただし、編集委員会が認めた場合は非会員の投稿も受け付ける。

●倫理的配慮・個人情報保護

- 1) ヒトを対象とする研究は、ヘルシンキ宣言を遵守すること。
- 2) 外科関連学会協議会「症例報告を含む医学論文及び学会研究会発表における患者プライバシー保護に関する指針」を遵守すること。個人情報保護に関する問題は著者が責任を負うものとする。
- 3) 原著および臨床検討については、倫理委員会の承認番号を表紙1および本文中に記載する。

●原稿の様式

- 1) 投稿論文は総説、原著、症例報告、臨床検討、その他とし、その種目別を明記する。
- 2) 臨床検討の内容は、施設や地域などの臨床経験、臨床統計などとする。
- 3) 様式は和文の題名・所属・著者名、英文の題名・所属・著者名、索引用語 (和・英文)、和文要旨、英文要旨、本文、文献、図表の順に記述する。
- 4) 論文の表紙1には、和文の題名、所属、全著者名、著者連絡先 (電話、FAXを含む) 所属長名あるいは論文指導者名、および倫理委員会承認番号を、表紙2には英文の題名、所属、全著者名、表紙3には索引用語 (和・英文) を記載する。
これら表紙は制限文字数に加算しない。

●原稿の書き方・ファイル形式

- 1) 現代かな使いに従い、医学用語を除き常用漢字とする。
- 2) 度量衡はCGS単位に限る。
- 3) 外国人名、薬品名などの科学用語は原語を用いるが、慣用語は片仮名を用いてもよい。
- 4) 論文にしばしば繰り返される語は略語を用いて差し支えないが、初出のときは完全な用語を用い、以下に略語を使用することを明記する。
- 5) 原稿は下記のファイル形式で保存する。
 - ・本文ファイル: doc, docx
 - ・図表ファイル: doc, docx, xls, xlsx, ppt, pptx, jpg

●和文、英文要旨

和文要旨は400字以内 (症例報告は300字以内) とする。英文要旨は200語以内 (症例報告は150語以内) とする。なお、あらかじめネイティブスピーカーの校正をうけることが望ましい。要旨は抽象的記述でなく、目的、方法、成績、結

論などの具体的な数字、内容を簡明にまとめる。

●索引用語

和文および英文で記述し、それぞれ原著および総説は5語以内、その他は3語以内とする。

●文字数制限

- 1) 総説、原著および臨床検討は本文、要旨、文献、図、表、写真を含め、12000字以内とする。通常の図、表、写真1枚は400字に相当する (総説のみ文献は文字数に含まない)。
- 2) 症例報告およびその他は本文、要旨、文献、図、表、写真を含め、7000字以内とする。通常の図、表、写真1枚は400字に相当する。ただし、本文、要旨、文献は5000字までとする。

●文献

- 1) 文献は本文中に肩付けした引用番号順に配列する。
- 2) 著者名は3名までは明記し、それ以上は「ほか」または「et al」とする。
- 3) 引用文献は検索可能なものに限る。「投稿中」論文は引用できない。
- 4) 誌名略記は医学中央雑誌収載目録略名表および Index Medicus に準ずる。
- 5) 文献の記載順序方法

イ. 雑誌

引用番号) 著者名: 題名. 雑誌名 発行西暦年号: 巻: 頁-頁.

- 例 1) 辺見弘, 前川和彦, 茂木正壽, ほか: 脾損傷. 日外傷研会誌 1992; 6: 195-210.
- 2) Stone HH, Fabian MD, Satiani B, et al: Experience of management of pancreatic trauma. J Trauma 1981; 21: 257-262.

ロ. 単行本

引用番号) 著者名: (分担項目名). (編者名). 書名.

(巻). (版). 発行地: 発行所, 西暦年号: 頁-頁.

- 例 3) 小林国男: 外傷性ショックの病態と治療. 渡辺好博, 中澤省三, 小林国男, ほか編. 外傷の救急治療. 第2版. 東京: 南山堂, 1990: 47-57.
- 4) Gutmann I, Wahlefeld AW: L-(+)-lactate, determination with lactate dehydrogenase. In: Bergmeyer HU, ed. Methods of enzymatic analysis. New York: Academic Press Inc., 1974: 1464-1468.

ハ. Web site 上の資料

Web site 上の資料は、再現性、責任の所在などが不明となる可能性があるため、参考文献として用いないことが望ましい (電子出版と Web site 上でしか閲覧できないものを除く)。

Web site 上の資料を参考文献として用いる場合は、書籍/雑誌などでの報告がないことを十分に確認したうえで、Web page のタイトル、URL、アクセスした日付を明記する。

- 例 The CRISP-DM consortium. CRoss-Industry Standard Process for Data Mining. 2000 [updated 2000; cited 2010 May 1]; Available from: <http://www.crisp-dm.org/Overview/index.htm>.

また Wikipedia 等書き込み型 Web page からの文献引用は認めない。

●図、表、写真

- 1) 簡潔な説明を付記する。図・表・写真のタイトル、内容・説明は英文で統一する。
- 2) 図（写真、グラフ）の最低解像度は1つあたり300dpiとし、図表ファイルの容量は1ファイル15MBまでを目安に作成する。1ファイルで15MBを超える場合は2個のファイルに分割する。記載順は本文挿入順とし、それぞれ Figure 1, Figure 2, あるいは Table 1, Table 2 として番号をつける。図表タイトル、説明文は最終ページにまとめる。
- 3) 図・写真は明瞭でそのまま使用可能なものとし、写真のトリミング、患者氏名のマスキング、矢印は著者の責任で処理する。

●利益相反

臨床試験（医薬品、医薬部外品、健康食品、医療機器等）に関する論文は、利益相反状態を自己申告しなければならない。

- 1) 投稿時に、「投稿時利益相反申告書」（別紙）により、共著者を含む全著者の利益相反状態を自己申告すること。
〔「利益相反管理指針・施行細則」、本学会ホームページ参照〕
- 2) 利益相反関係（例：研究費、特許取得を含む企業との財政的関係、当該株式の保有、公的研究費に基づくかどうか等）の有無を本文の最後に明記すること。利益相反関係がある場合には、関係する企業・団体名も明記すること。

注) 利益相反に関する記載例

- ・本研究は〇〇の資金提供を受けた。
- ・〇〇の検討にあたっては、□□から測定装置の提供を受けた。
- ・利益相反はない。

●採否の決定

投稿論文の採否は編集委員会の審査によって決定する。審査には査読制を採用する。採用決定日をもって論文受理日とする。

●校正

著者校正は1回のみとする。校正時の追加、削減は原則として認めない。

●著作権

掲載された論文の著作権は、本会に無償で帰属することとする。ただし、著作権を移譲した著者が自ら作成した図表等を再使用する場合には、出典を明記すれば本会の許諾を必要としない。

●掲載料金

図のトレーシングを必要とする場合の実費は著者負担とする。

●投稿の方法

日本外傷学会ホームページ (<http://www.jast-hp.org/>) よりオンライン投稿受付画面に進み、個人ページにログインして投稿する。投稿手順、ログイン方法等は投稿受付画面掲載の『投稿手順マニュアル』を参照する。